

令和5年2月17日

能代市教育委員会
2月定例会会議録

能代市教育委員会

令和5年2月17日、能代市教育委員会定例会を能代市役所二ツ井町庁舎2階大会議室において、午後2時に開会した。

○出席の委員は、次のとおりである。

教育長	高橋誠也
委員	木村高寛
委員	西村省一
委員	中嶋佐千子
委員	寺田恵美子

○説明のため出席した者は、次のとおりである。

教育部長	伊藤勉
教育部次長	関俊英
教育総務課長	柳谷敬
能代教育事務所長	本間将
学校教育課長	矢田部瑞穂
学校教育課参事	三洲龍太
学校給食センター所長	工藤久美子
生涯学習・スポーツ振興課 文化財保護室長	山崎和夫
教育総務課長補佐	秋林純

○オブザーバーとして参加した者は、次のとおりである。

学校教育課指導主事	柴田裕彦
学校教育課指導主事	大山祐子

○本日の会議に付した事件

日程第1 会期の決定

日程第2 会議録署名員の決定

日程第3 前回定例会会議録の承認

日程第4 教育長報告

日程第5 議事

議案第1号 第4次能代市社会教育振興中期計画について

議案第2号 能代市学校教育施設整備基金条例案に対する意見の申出について

議案第3号 能代市公民館条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について

議案第4号 能代市子ども館条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について

議案第5号 能代市生涯学習施設サン・ウッド能代条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について

議案第6号 能代市文化財資料収蔵庫条例案に対する意見の申出について

議案第7号 令和4年度能代市一般会計補正予算案に対する意見の申出について

議案第8号 令和5年度能代市一般会計予算案に対する意見の申出について

日程第6 その他

【日程第1 会期の決定】

○教育長

本定例会の会期は、本日1日限りとし、会議時間を午後4時までとする。

【日程第2 会議録署名員の決定】

○教育長

会議録署名員に、2番木村委員と5番中嶋委員を指名する。

【日程第3 前回定例会会議録の承認】

○教育長

委員の皆さんから異議がないので、前回1月定例会会議録を承認する。

【日程第4 教育長報告】

○教育長

前回定例会以降の行事等について報告。

1月30日(月) 第1回教育長面接：県教育委員会（山本地域振興局）

1月31日(火) 能代市青少年問題協議会幹事会（新庁舎 会議室9・10）

2月 1日(水) 令和4年度秋田県都市教育長協議会：教育長・関係課長会議

（あきた芸術劇場ミルハス）

2月 2日(木) 令和4年度第3回能代市社会教育委員の会議

（新庁舎 会議室9・10）

2月 3日(金) 令和4年度能代山本教育研究体育部会研修会（酒食彩宴 粋）

2月 8日(水) 令和4年度能代市校長会第4回校長研修会（向能代小学校）

2月 9日(木) 令和4年度教職員人事評価面談：各小学校（二ツ井町庁舎 庁議室）

2月10日(金) 令和4年度教職員人事評価面談：各中学校（二ツ井町庁舎 庁議室）

2月10日(金) 令和4年度第5回能代市スポーツ推進委員会（シャトー赤坂）

2月14日(火) 能代市栄光賞授与式（能代市総合体育館）

2月15日(水) 第2回教育長面接：県教育委員会（山本地域振興局）

2月16日(木) 令和4年度第2回能代市立小・中学校事務共同実施推進協議会

（二ツ井町庁舎 庁議室）

2月17日(金) 教育委員会定例会（二ツ井町庁舎 大会議室）

2月20日(月) カリキュラム・マネジメント第3回検討会議

（二ツ井町庁舎 大会議室）

- 2月22日(水) 第3回教育長面接：県教育委員会（山本地域振興局）
- 2月28日(火) 市議会定例会（～3/24 新庁舎 議場）
- 3月12日(日) 中学校卒業式（能代第二中学校）
- 3月14日(火) 小学校卒業式（第四小学校）
- 3月27日(月) 教育委員会定例会（新庁舎 会議室9・10）

【日程第5 議事】

○教育長

「議案第1号 第4次能代市社会教育振興中期計画について」説明を願う。

○教育部次長

議案第1号 第4次能代市社会教育振興中期計画について《資料により説明》

○木村委員

1 ページの策定の趣旨について、前半部で今日的な社会の課題を示し、それに対してどういう指針をもって努めていくかを述べているように思う。そこで、下から4行目の「市民一人一人が生涯にわたって必要な学習を行い」の次に「誰一人として取り残されることのない世界を見据えて」という文言を入れてはどうか。誰一人として取り残さない云々というのは、SDGsを意識した言葉だが、直接SDGsを表記するのはこの文面にそぐわないと思った。私の希望として述べる。

○教育部次長

木村委員の意見について、大変恐縮ではあるが、記述の部分はこのままの文面でご了承いただきたいと考えている。

○木村委員

了承する。計画策定する際、誰に伝え、誰が読むのかを考えたとき、行政の中の人だけが読む文章なのか、市民の方々まで伝えていく文章なのか。相手を見ながら、言葉を選んでも良いのかなと感じた。

○教育長

異議がないので、「議案第1号」を可決する。

次に、「議案第2号 能代市学校教育施設整備基金条例案に対する意見の申出について」説明を願う。

○教育総務課長

議案第2号 能代市学校教育施設整備基金条例案に対する意見の申出について《資料により説明》

○教育長

異議がないので、「議案第2号」を可決する。

次に、「議案第3号 能代市公民館条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について」説明を願う。

○教育部次長

議案第3号 能代市公民館条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について《資料により説明》

○教育長

異議がないので、「議案第3号」を可決する。

次に、「議案第4号 能代市子ども館条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について」説明を願う。

○教育部次長

議案第4号 能代市子ども館条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について
《資料により説明》

○教育長

異議がないので、「議案第4号」を可決する。

次に、「議案第5号 能代市生涯学習施設サン・ウッド能代条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について」説明を願う。

○能代教育事務所長

議案第5号 能代市生涯学習施設サン・ウッド能代条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について《資料により説明》

○教育長

補足する。落合テニスコートがリニューアルされたこともあり、サン・ウッド能代のテニスコートの利用者が減少していること、また、駐車場が狭小であることから、テニスコートを廃止し駐車場の拡張を図るものである。

○教育長

異議がないので、「議案第5号」を可決する。

次に、「議案第6号 能代市文化財資料収蔵庫条例案に対する意見の申出について」説明を願う。

○生涯学習・スポーツ振興課文化財保護室長

議案第6号 能代市文化財資料収蔵庫条例案に対する意見の申出について《資料により説明》

○教育長

補足する。文化財資料収蔵庫は旧朴瀬小学校を改修したものである。湿度、温度等の管理を行い、能代の色々な文化財を適正に保存管理する。整理作業室等も配備されるが、これは完成したのか。

○生涯学習・スポーツ振興課文化財保護室長

体育館部分の大型収蔵庫については完成している。今月中に、校舎教室棟部分の整理作業室や特別収蔵庫等も完成する予定である。

○中嶋委員

文化財資料収蔵庫の見学は可能なのか。

○生涯学習・スポーツ振興課文化財保護室長

完成後、日程調整してご案内したいと考えている。

○教育長

異議がないので、「議案第6号」を可決する。

次に、「議案第7号 令和4年度能代市一般会計補正予算案に対する意見の申出について」説明を願う。

○教育部次長

議案第7号 令和4年度能代市一般会計補正予算案に対する意見の申出について《資料により説明》

○木村委員

10款、小学校費の教育振興費で、要保護及び準要保護児童生徒援助費とあるが、要保護と準要保護の定義は何か。そして、これを受けている子どもの数の増減について、ご教示願う。

○教育部長

要保護の方が、生活保護受給者の児童であり、準要保護というのが、生活保護受給者に準ずる方の児童で、所得が比較的低い方となる。この準要保護の位置付けだが、各市町村で、対象児童の範囲、定義が微妙に異なっており、基本的には生活保護基準に準ずるということで、その約1.2倍未満の所得の方が、能代市の場合は対象児童という形で捉えていただければと思う。

要保護、準要保護の児童生徒の推移だが、児童数全体は減少傾向にあるが、その対象児童の率については、どちらかという増加傾向にある。実は、県内各市の中で、この対象児童に関しては能代市が一番、率としては高い。4分の1程度と捉えていただければと思う。

○木村委員

能代市が高いというのは、それだけ手厚い対応をしていると捉えていいのか。

○教育部長

要保護は生活保護基準で全国一律の基準になる。準要保護は各市で微妙に範囲が異なり、かつ、その率が比較的県内でも能代市は高いことから、他市町村と比較し手厚いという見方ができると思う。

○教育長

異議がないので、「議案第7号」を可決する。

次に、「議案第8号 令和5年度能代市一般会計予算案に対する意見の申出について」説明を願う。

○教育部次長

議案第8号 令和5年度能代市一般会計予算案に対する意見の申出について《資料により説明》

○西村委員

歳出10款、1項で、教育研究所費のスクールDX推進事業費について、今後どのように進めて行くのかということと、ICTを活用した授業改善支援事業費は、電子黒板のリース料ということだが、これは、全クラス、教室に導入するという事なのか。

○学校教育課長

スクールDX推進事業について、予算としてはタブレットのリース料が主なものである。将来的には、タブレットを充実して使えるようWi-Fi環境のない世帯への支援や、校務支援システムを導入して、教員の働き方改革に寄与できるよう形を整えていくこと等を考えている。

ICTを活用した授業改善支援事業費について、電子黒板は全ての学校の全普通教室に配置を目指しているが、小学校において不足しており、今後、年次計画で配置を考えている。

○寺田委員

歳入の雑入に特別支援教育推進事業費負担金が、歳出10款1項4目には特別支援教育推進事業費、さらに小学校費に特別支援教育就学奨励費、中学校費にも特別支援教育就学奨励費が計上され、能代市が特別支援教育にも非常に力を入れていることが伺える。この

歳出の特別支援教育推進事業費と、特別支援教育就学奨励費がどのようなものなのか、ご教示願う。

○学校教育課長

特別支援教育推進事業費は、特別支援にかかるアドバイザー、統括コーディネーターの配置等で、子どもの支援のための人件費等が主なものである。

後者の特別支援教育就学奨励費は、特別な支援を必要とする児童生徒のための教材費や、学校の内外での活動に必要なものを補助していく扶助費である。

○教育長

異議がないので、「議案第8号」を可決する。

【日程第6 その他】

○教育長

「その他」について

各課から 報告事項や連絡事項があれば、願います。

○教育総務課長

能代市教育等の振興に関する施策の大綱案のパブリックコメントの結果及び今後の予定について《資料なし》

○教育長

質問等をお願いします。

○教育長

質問等がないようなので、質疑を終了する。

続いて、委員から本日の議事や報告事項等以外で、意見等があれば、発言をお願いします。

○西村委員

先日の新聞報道で、部活動地域移行の成果と、3市町村（羽後町、大館市、能代市）の中学校先行実施というのが掲載されていたが、本市の取り組み状況と成果等について、ご教示願う。

○学校教育課長

本市では現在、各中学校に運動部活動指導員を1人ずつ配置し、さらに能代東中学校には吹奏楽部の指導で、文化部活動指導員を1人配置し、合計7人を配置している。来年度については、各校2名の配置を予定しており、より充実した活動が期待される。

成果としては、生徒にとって専門的な指導を受けられるという点、また、教員の働き方改革にも大きく寄与しており、教員が休日、または平日であっても、練習全てに関わらなくてもその指導員に任せられる部分があるという点が挙げられる。

現時点で、地域移行に向け全教職員及び保護者、生徒にアンケートを実施しており、集計後、課題を精査しながら進めていきたいと考えている。

○教育部次長

その他に、部活動地域移行について、来年度、組織づくりに向けた活動を予定している。現在は学校の方から指導員の方を探していただいて配置しているが、地域全体のそういった部活動の支援を司るための組織づくりをしていかなければならないということで、来年度は、こういったことに関し詳しい方をコーディネーターとして招き、この地域に合った形の組織体制づくりを検討していきたいと考えている。

○西村委員

色々なことが想定され、手探り状態の中で大変だと思うが、能代市に合ったものを考えていただきたいと思う。

○寺田委員

先月の定例会の際、木村職務代理から特別支援を必要とする子どもの親御さんが、専門機関に相談する前に、どこかクッションとなるような、つなぐ役割というか、そういったことが充実していけばというお話を伺い、幼児教育に携わる立場の私たちも、人任せにしていたところがあったなど、もっとそうした保護者の悩みや相談に乗れるような立場になればよかったと思う。また、年齢が幼なれば、その判断、診断をつけにくいところがあり、すごく難しいなどその後考えさせられた。

能代市の体制なども変わってきて、そうした子供たちにも真摯に向き合ってくれているのだが、やはり、まだまだその保護者の方々の負担や悩みは尽きないのだなということを感じている。

そして、学校教育課では、5歳児親子相談や、就学前の「すてっぷ」通級などへも取り組んでいるが、まだ、就学を意識した相談等が多く見受けられ、その幼児期の年齢に必要な援助等、そうしたところを私たちも学ぶべきと思うが、私たち自身もどう相談して良いか、どういう段階で相談すべきか、というところが見えていない。指導主事の他、臨床検査師、コーディネーター等が園を訪問してくれているが、今回、初めて比内支援学校の先生が、中堅研修という形で来てくれた。私たちも、もっと学校や支援学校の専門の先生等の話を聞いたりする機会が必要ではないかと感じた。

能代市は私立の幼稚園が主だが、学校は公立で、そこに子どもたちが行くというところで壁を感じる。支援を必要とする子どもや保護者のために、私たちができることを御教示願う。

○学校教育課長

幼保と小学校の壁というのが以前はとても大きかったと思う。平成28年から、幼保小連携を進めてきており、今年度については、幼保、小の先生方お互いに心を開いて、様々な相談事ができるような関係が築かれてきている。専門的な方からの説明を聞き、さらに交流のレベルが上がった。まだ完全ではないものの、ますます交流の質が上がり、円滑な接続につながるものと考えている。

○学校教育課参事

今年度、幼保小を担当している。課長の説明にもあったが、年長の先生方と一年生の先生方が3回研修会を行うと共に、今年度は久しぶりに管理職向けの研修会を行い、非常に好評を得た。スタートプログラムというものがこれから始まり、一層、幼保小の連携が必要となってくるため、今まで以上に来年度も頑張っていきたいと思う。

子育て支援課の方に、元校長先生だった方をアドバイザーとして今年度から配置し、全部の園を定期的に巡回している。反省としては、そのような特別な支援を要する園児に関しても、どうつなげていくかについて次年度に申し送りするとともに、今いただいたご意見についても考慮していきたいと考えている。

○教育長

最初、幼保と小の連携ということから始まり、幼保小連携と特別支援は別々に考えていたが、やはりどうしても特別支援の部分が重なり、一番困っている点もそこなので、お互いにのりしろを多くしてやっっていこうという取り組みになってきている。

○木村委員

寺田委員の現場の声はやはり重いなと受け止めた。保護者が一番心配されてるのは何か、一つでいい。例えば多動症とか、発達障害とか、何か一つ解決してあげると、子どもの性格に安心が生まれてくると思う。そういう点で、あれもこれもと言っていけば、やはり行政には限界がある。従って、医療に関する診断をきちんとその子どもにしてあげると、病院ではなく、そういうアドバイザーの方が、これは病院にかからなくて大丈夫だよ、これはやっぱり病院に行かなければ駄目だね、そっちの方に紹介するよ、と。この一言があると、親御さんはそれなりに判断していくと思う。医療に関するつなぎをその面接の中できちんと注視して展開し、あとは子育てに関しては皆さんプロなんですから、お話を聞きながら、適切なその時その時のアドバイスで良いかと思う。医療に関してだけはきちっと、その親御さんがどの道を選択すればいいのかという所を、指導していただければありがたい。ただ、行政にも限界はある。最後にはやはり、親がきちんと子育てをするという意欲を持たせてあげる、そんな感じを受けた。

○教育長

他に、意見等がないようなので、終了する。

以上で予定された事項は、すべて終了した。

次回の定例会は、令和5年3月27日午後2時から、能代市役所新庁舎3階会議室9・10において開催したい。

本日の定例会を閉会する。

午後3時20分閉会